

丹沢山ろくの
風土と風景
生物多様性を
次世代へ伝える

～丹沢ドン会27年の活動とこれから～



2018年11月10日（土）
かながわトラストみどり財団 ボランティア活動発表

NPO法人自然塾丹沢ドン会理事長 片桐 務

子どもたちの笑顔を
未来へ！

神奈川県秦野市名古屋？







2018年の 丹沢自然塾生



地域の課題を 解決するために 都市と農村～ 交流から対流・流入へ

- ・担い手はどこにいるのか？
- ・人を呼び込む仕掛けと仕組み
- ・参加者は秦野市内・神奈川県内はもとより、東京・埼玉在住の老若男女・子どもたち
- ・平らかな関係で得意技と個性を磨き、互いに尊重し合う
- ・一人ひとりが安らぎを感じ、輝く居場所をつくり出す



都市のマンパワーを丹沢山ろくへ



「丹沢自然塾」の開催



0歳～80歳代、多様な年齢構成



対等平等・個性を尊重し合う



それぞれの居場所づくり

丹沢ドン会の歩み

- ・1991年11月 『ドンドンが怒った～森の動物たちの反乱』（岡進・作 西巻一彦・絵 夢工房刊）
- ・1992年3月 丹沢ドン会発足
- ・1992年11月 第1回丹沢シンポジウム開催
- ・2001年9月 NPO法人自然塾丹沢ドン会、神奈川県
の認証を受ける
- ・2002年2月 雑木林の管理活動、名古木の棚田開墾活動（5月）を始める
- ・2003年11月 神奈川地域社会事業賞（神奈川新聞社）、手づくり郷土賞・地域活動部門（国土交通省）を受賞
- ・2004年2月 ドン会の里地里山保全・再生活動が、神奈川県ボランティア活動推進基金21の補助対象事業に（3か年継続）第1回「丹沢自然塾」（6月）開講
- ・同年7月 環境省「里地里山保全再生モデル事業」全国4か所の一つに「秦野市等」として選定
- ・2005年4月 NHKテレビ「おはよう日本」で名古木から棚田の復元活動を生中継。みどりの日「自然環境功労者表彰」環境大臣表彰を受賞
- ・同年 名古木の自然調査を東海大学人間環境学科自然環境課程と協働で開始



丹沢ドン会の歩み 2

- ・2006年6月 NHKテレビBS2「おーい、ニッポン 私の好きな神奈川県」で名古屋の棚田の田植えを全国生中継
- ・同年12月 第3回団塊サミットIN丹沢「団塊パワーで地域創造を」を秦野市と協働で開催。基調講演・残間理江子、分科会「新しい公共」の担い手は・緑と食の元気づくり・地域創造と団塊の地域デビュー、全体会「団塊世代よ、セカンドライフをどう生きる！」で全国に情報発信
- ・2007年5月 NHKテレビ「ふるさと一番！」で名古屋の棚田復元活動を生中継
- ・同年～2008年 東京農業大学の「棚田の米づくりと水生生物の研究」を支援
- ・2010年4～5月 全国植樹祭・秦野市市民植樹会に参加
- ・2011年3～4月 東北大震災・東京電力福島第一原発事故に際し、義援金12万円余りを飯舘村に贈る



丹沢ドン会の歩み 3

- ・2012年2月 ドン会20周年記念トーク&コンサートを秦野市四ツ角、五十嵐商店で開催
- ・同年6月 隣接の名古木の棚田の復元活動を再開。前年より水生生物・植生の現状調査を始め、開墾前・開墾後の定点観測を実施
- ・2013年4月 川崎恵美子さんより生前の公正証書による多額の寄付を受け、次世代へ継承するために「ドン会川崎基金」の活用について検討開始
- ・2015年3月 ドン会の23年間の里地里山の保全再生活動に対して、神奈川県知事より2014年度「かながわ地球環境賞・地球環境保全活動部門」を受ける
- ・2016年10月 丹沢ドン会25周年記念「生物多様性緑陰フォーラムIN名古木」を開催（秦野市と共催）。鷺谷いづみ東京大学名誉教授（中央大学教授）の記念講演「保全生態学から見た、さとやまの生物多様性のいま」に100名余りの参加者
- ・2017年4月～ 東海大学（自然環境課程）・慶應大学一ノ瀬研究室による「名古木の自然総合調査」開始（～2020年3月まで3か年の継続調査）



- ・2017年6月24日～26日 秋田三種町増浦地区との交流イベント開催
- ・2017年7月30日 第1回「丹沢こども自然塾」開催（秦野市共催・同教育委員会後援）
- ・2018年7月29日 第2回「丹沢こども自然塾」秦野市と共催・同教育委員会後援

ドン会の思いと理念

- ・ 自然は未来からの預かりもの。身近な自然や伝統的な農村風景、風土と生活文化を次の世代へ伝える
- ・ 自然は、人間の心身をいやし、守る。一方で人智に及ばぬ猛威を振るう。人間の都合を少し控え目に、生き物たちとの共生を図る
- ・ 地域の名人は「生きる知恵の宝庫」、地域と地域人に感謝し、学ぶ
- ・ 世代を超えて自然・農業体験。仲間・ファミリーの共通体験はコミュニケーションの源
- ・ 食べものは人の体をつくる、安全・安心な食べ物づくりにこだわり、地域の食文化を伝える
- ・ 参加者は誰でも対等平等、平らかな関係でお互いを尊敬しあう。ドン会の肉体派は人のために楽しく汗を流し、他者を思いやる
- ・ 人は誰でも何かしら、誰かの役に立つ個性や才能を持っている。一人として不必要な人はなく、何一つとして意味のないものはない



学び合う、シンポジウム ・山麓展・学習会

- ・ 1992年11月、第1回「丹沢シンポジウム」開催。
「丹沢の自然のことをもっと知りたい。その道の専門家に話を聞こう」
- ・ 以後、年1回開催した共通テーマは、「丹沢の自然と私たちの暮らしを考える」。その内容をブックレットに。第1回は「丹沢が危ない！」
- ・ 丹沢山ろくと盆地の街・四ツ角の商店街を結び、シャッター通りに元気を取り戻すために空き店舗を使い「丹沢山麓展」を開催。その後、「わいわい秦野市場」として商店街が主催する催しに発展
- ・ ドン会会員・市民を対象に「丹沢山ろく学習会」を開催。里地・里山の意味・生き物たちなどの自然・地域の歴史・文学・民俗などを学び合う



棚田の復元 1

- ・ 2002年、名古屋の棚田の復元活動開始。1年かけて7枚の棚田を復元、翌年より米づくりを始める
- ・ 身の丈以上の雑草を刈り払い、灌木を切り倒し、野焼き。かつての棚田がその姿を現わした
- ・ 復元活動は、まさに人の手による開墾。カマ・クワ・スコップをつかい、その後も1年に2~3枚ずつ開墾
- ・ 小川に土嚢を積み、水位を上げ、用水路を掘り、一番上の田んぼに水を引く
- ・ 喜びもつかの間、台風の豪雨により、小川は1メートル余りえぐられた。上流を遡ってみると、荒廃した黒い植林地。雨は地表面を流れ、沢に集まり土手を崩壊



棚田の復元 2

- ・ 2012年より、第2期の棚田復元活動を開始。第1期の下流に接する地権者からドン会に30年余り耕作されていない棚田を復元してほしいとの要望を受けた
- ・ 前年より、東海大学人間環境学科自然環境課程の北野忠（水生生物）、藤吉正明（植物）先生に定点観測を依頼。開墾前後の変化を検証
- ・ 17年間にわたり復元した棚田の田んぼは30枚余り
- ・ 併せて「ドン会川崎基金」を活用した子どもの自然・農業・遊び体験学習の場としての環境整備、ドン会の拠点づくりも検討中



丹沢ドン会の 情報発信

- 一般紙・地元紙・雑誌・テレビ・ラジオなどの情報発信媒体の有効活用
- HP・ブログなどインターネットによる情報発信
- 『ドン会ニュース』、イベント告知のチラシなど紙媒体の活用
- 一番効果的な「口コミ」
- 何より大切なユニークな楽しい、社会に役立つ活動



丹沢自然塾

- ・都市と丹沢山ろくをむすぶ
- ・米づくり・安全安心な野菜づくりを通して食文化を考える
- ・棚田の再生・米づくりで水生生物たちが帰ってきた。親子と一緒に農業・自然体験をし、自然との付き合い方を学ぶ
- ・子どもたちは未来をつくる。名古屋の棚田で担い手づくり
- ・自然の循環をつなげる里山管理活動で里山・里地のしくみとその働きを知る
- ・「丹沢自然塾」における1年間の自然・農業体験の後は、毎週土曜日の丹沢ドン会での活動へ



2018年 丹沢自然塾のカリキュラム

No	月日・曜日	テーマ	会場	講師・ドン会の担当
1	4月7日（土）	「丹沢自然塾」開講オリエンテーション、棚田の種まき教室	名古屋	金田・大森（恵）・川田・丹藤（恒）各担当・丹藤・染矢
2	5月12日（土）	棚田の田植え準備教室	名古屋	金田・丹藤・染矢
3	5月26日（土）	棚田の苗取り・田植え教室	名古屋	金田・丹藤・染矢
4	7月7日（土）	田んぼの生き物観察教室	名古屋	東海大学自然環境課程・北野忠教授＋ゼミ生
5	8月18日（土）	そばの種まき教室	名古屋	丹藤
6	9月29日（土）	棚田の稲刈り教室	名古屋	金田・丹藤・染矢
7	10月20日（土）	里山ウォーキング（名古屋の棚田～念仏山～善波峠～富士見の湯）	秦野駅～渋沢駅	鎌倉・金田:秦野市と共催
8	11月25日（日）	収穫祭＋フォルクローレ・コンサート	名古屋	丹藤・川田・大森
9	12月15日（土）	新そば・手打ち体験教室	雨岳文庫	浅井
10	2019年 2月23日（土）	里山管理教室＋自然塾修了式	羽根	田部井・若松・工藤・金田・丹藤・川田

名古屋の 復元棚田の 米づくり

・ 2002年から始めた名古屋の棚田の復元活動。命の水を育む丹沢の緑、自然のろ過装置を経た水は沢を伝い小川に集まる

・ 水路を掘り、最上段の田んぼへ導水。太陽に当たって温まった水は、順番に下の田んぼへと流れ、棚田を潤す

・ 米づくりは百の手を使って完成する。粃の塩水選・苗づくり・あぜ塗り・代掻き・苗取り・田植え・草取り・水の管理・稲刈り・天日干し・脱穀・精米・・・そしてカマド炊きのごはん



安全・安心な 食べもののづくり

- ・名古屋では米づくり以外にも、野菜づくり、ソバづくりなど、安全安心な食べもののづくりを実践
- ・ソバづくりでは、8月のお盆明けの土曜日に種まき、土寄せ、疎抜きの作業を経て、畑一面に広がる白いそばの花を觀賞し、そばの刈り取り、天日干し、脱粒作業の後、製粉へ
- ・12月15日（土）には、伊勢原雨岳文庫で「新そば・手打ち体験教室」を開催する。「挽き立て・打ち立て・茹で立て・香り立て」の4立ての手作りそばを堪能し、食の醍醐味を味わう



新鮮野菜づくり

- ・ 20アールほどの名古屋の畑で、季節ごとの新鮮野菜づくり
- ・ 野菜づくりの中心メンバーはドン会女性陣
- ・ ジャガイモ・玉ねぎ・ナス・キュウリ・トマト・ミニトマト・オクラ・ピーマン・しし唐・ズッキーニ・インゲン・ダイコン・白菜・キャベツ・ほうれん草・水菜・チンゲン菜など年間を通して40種類余
- ・ 労働の後の昼食には、新鮮野菜を使った恒例の味噌汁やサラダが用意され、各自持ち寄りの惣菜がテーブルに並ぶ
- ・ たくさん取れた時には、参加者のお土産になることも
- ・ 手作りの安全・安心な野菜づくりを通して、食生活と食文化、暮らしと命を考える



コスモス・菜の花 による里地の 景観づくり

- ・名古屋の景観づくりのために、コスモス・菜種の種を畑の周縁にまく。秋・春には里山に可憐な花畑が出現する

- ・2015年4月、田んぼづくりの真っ最中に、東海

大学自然環境課程の北野 忠教授とゼミ生、そして水生生物大好きなタレントのルー大柴さんが、名古屋にやってきた。月刊『アクアライフ』7月号に

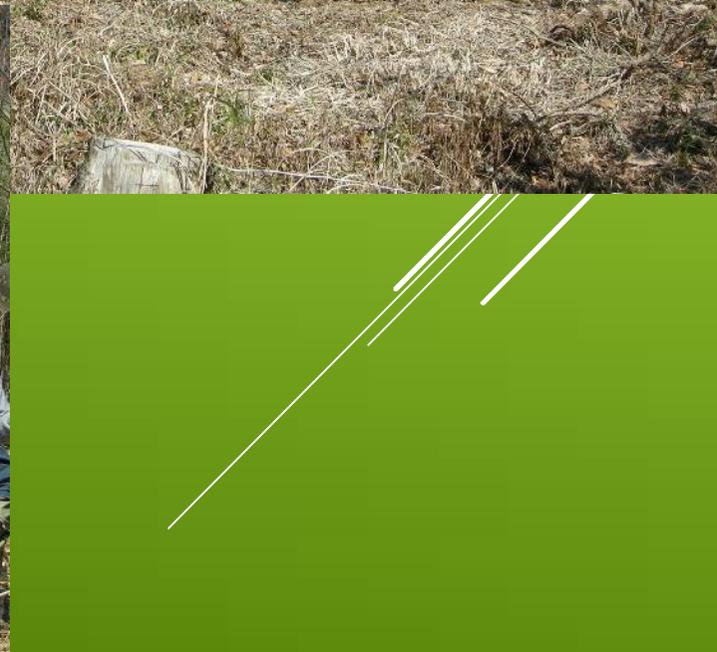
「温かい人の手によって守られる美しい棚田の風景」と掲載

- ・黄色い菜の花が咲き乱れ、周囲の里山は、緑のグラデーション。四季折々に魅せる里山の風景。まさに桃源郷



里山管理活動

- ・ 名古屋～羽根の里山管理活動17年
- ・ 秦野市ふれあいの森づくり事業は、地権者・秦野市・ドン会の3者による協定で、荒廃した里山の雑木林を再生し、管理する
- ・ 5～6メートルに及ぶササを切り倒す。翌年からは陽の光を浴びた地中の植物が息を吹き返して生い茂る。下草との戦いは4～5年に及んだ
- ・ 地域の里山からドングリを採取、クヌギ・コナラの苗木を育て、ヤマザクラ・コブシなどを植樹
- ・ 下草刈り、補植をつづけ、里山の元気づくりに取り組む
- ・ 秦野市里山ふれあいセンターでは、木工教室・竹細工教室などを開催した



ドン会収穫祭 & フォルクローレコンサート

- ・ 恒例の収穫祭は、11月の最終日曜日
- ・ 参加者は得意料理やアルコールなどの飲物の一品持ち寄り。100種近い逸品が集まる
- ・ 大人1人1000円、1ファミリー何人でも2000円の参加費
- ・ 地元の人たち、ネットワークを組む各種団体、行政の担当者も参集
- ・ フォルクローレの、のどかな調べにのせて、輪をつくりフォークダンス
- ・ 名古屋の棚田とその周辺にドン会の活動の場を提供していただいている地権者、「おはようございます」の声掛けから始まった地域の人びととの交流を深める



自然の猛威：イノシシ・大雨に全滅 した2016年の米づくり

- ・ 収穫間近にイノシシは防護ネットを破り稲穂を食べ尽くした。新聞記事を読んだ読者が、被害の状況を空からドローンで撮影
- ・ 元をただせばイノシシが山から里へ下りてきたのは人間のせい。地域ぐるみの解決策を農家の人たちと話し合う
- ・ 2017年は、地域の農家の人々の理解を得て、棚田と畑の周囲を電気柵で囲い、野生動物の被害を防ぐ。640キロの米を収穫



里山における生き物と 人間のかかわり

2018年10月、丹沢自然塾「里山ウォーキング」で見た現実とは。



名古屋の田んぼは 生物多様性の宝庫

・ 東海大学人間環境学科自然環境課程・北野忠教授とゼミ生による田んぼの生き物観察教室（7月7日）。北野先生の水生生物の定点観察は16年に及ぶ

・ 名古屋の復元棚田には、かつて当たり前のようだった水生生物が現在も生息している。田んぼに水を引き米づくりをすることによって多様な生き物たちが帰ってきた

・ シマゲンゴロウ・タイコウチ・アカハライモリ・シュレーゲルアオガエルなど、この日の成果を子どもたちは目を輝かせて聞き入る。未来の研究者が名古屋から育て欲しい

・ 名古屋の棚田は、NPO法人神奈川県自然保護協会50周年記念事業「かながわの生物多様性ホットスポット」に選定



丹沢ドン会25周年記念 生物多様性 緑陰フォーラム IN名古木

・2016年10月15日（土）丹沢
ドン会のフィールド・名古木の
棚田の原で開催。鷺谷いづみ東
京大学名誉教授の講演を聞く。

「樹林・沢水・水路・湿地帯・
田んぼ・畑・草原など異なる生
態系が組み合わさった名古木は、
生態系の多様性が高い」「外来
種のアメリカザリガニのいない
名古木は貴重」「セイタカアワ
ダチソウは根っこから抜いて」



ドン会川崎基金の活用

- ・ 2013年4月、横浜市青葉区の川崎恵美子さんより、NPO法人日本生前契約等決済機構を通して丹沢ドン会に多額の寄付
- ・ 故人の遺志を最大限生かし、未来の子どもたちのために、その活用法の検討を開始。最大効果を実現するための仕掛け・仕組みづくりを研究・探求している
- ・ そのコンセプトは、①伝統的な農村風景を次の世代に伝える、②生物多様性を保全再生し、人間と生き物たちとの共生を図る、③次世代の担い手である子どもたちの自然・農業体験の場づくりと仕組みづくり=人材育成、④場づくり・仕組みづくりを支えるマンパワーのネットワークづくり、⑤都市と丹沢山ろくをむすぶ「丹沢自然塾」の深化と、「丹沢子ども自然塾」の継続開催



名古屋の棚田の 自然・環境総合調査



- ・ ドン会川崎基金を活用した「名古屋の自然・環境総合調査」が2017年4月からスタート。2020年3月までの3か年の継続調査を担当するのは、2つの大学

- ・ 東海大学人間環境学科自然環境課程の室田・北野・藤吉教授とそのゼミ生。水生生物・水質・植生（土壌を含む）がテーマ

- ・ 慶応大学一ノ瀬研究室のテーマは、アカハライモリ・哺乳類・野鳥・昆虫

- ・ 調査の成果をこれからの丹沢ドン会の活動・地域づくりに生かす

- ・ 2018年6月 慶應大学一ノ瀬研究室「秦野の生物多様性調査プロジェクト」による中間報告会開催



他地域との交流

秋田県三種町

長野県中川村



丹沢こども自然塾



第2回 丹沢こども 自然塾

(台風接近による
荒天のため中止)

第2回
丹沢こども
自然塾

2018年7月29日(日曜日)
10:00~14:30

場所：丹沢町立丹沢小(16名)の校舎
集合：8:50 小宮金網養野営区入口
(トンネルのすぐそばの駐車場、徒歩で15分)
対象：小学生(保護者)名は不明(希望者)
募集人数：小学生 24名
参加費：1名児1050円(希望保険適用)
服装：長袖、長ズボン、帽子、長靴、草履、タオル、水筒。(虫取り網)
申込締切：7月20日(金)9時定員になり次第締め
内容：①自然観察サイト② 入と虫網について学ぼう！
③おまじないクイズ④ 隠れているものを見つけよう！
⑤生き物観察

主催：NPO法人自然塾丹沢分団 養野市
後援：丹沢町教育委員会
企画・運営：環境教育大学 一ノ瀬研究室

申込方法
以下のURLか右のQRコードからお申し込みください。
参加されるお子様が4名以上の場合は、メールでのお問い合わせを
頂くと幸いです。
申込フォーム：https://goo.gl/forms/gpIVrABGAYs0knQa2
Email: kodomo.sizenjyuku@gmail.com

こども・未来

仲間と一緒に楽しくいい汗をかこう！
生物多様性と人の多様性を大切に！
子どもたちの未来へ！
この風景を伝えよう！

